

キラリわたしの学校

～校区内の自然を生かした環境教育～

美九里東小学校は、地域の皆さんと共に校区に残る豊かな自然と文化財を生かした教育に取り組んでいます。その一つは環境教育です。

地域で活動する「旧笹川をきれいにする会」の皆さんと、県指定の絶滅危惧種で県内では藤岡市にのみ生息するヤリタナゴの住む旧笹川周辺の清掃活動を行っています。自分たちの住む地域をきれいにすることで子どもたち一人一人は誇りを持ち、地域の貴重な自然を守る一員として、将来のことを考えることができます。参加した子どもは「ヤリタナゴが住みよい環境になっているのであればうれしい」と笑顔を見せます。またかな川水辺の楽校では神流川の水生生物や水質調査を行ったり、藤岡森林事務所・多野東部森林組合の協力により庚申山の樹木の間伐

美九里東小学校

問い合わせ 学校教育課(☎508212)
美九里東小学校(☎20813)



↑旧笹川周辺に落ちていた空き缶やビニール袋などのゴミを手分けして拾っていました。

やシイタケのコマ打ち体験などを通して森林の働きや保護について学んだりしています。これらの活動により、平成30年度の環境保全功労者等環境大臣表彰「地域環境美化功績者」を受賞しました。

またその他にも、御巢鷹山の慰霊登山に使う慰霊の杖へのメッセージ書き、藤岡特別支援学校との交流、デイサービスセンターへの訪問などの福祉教育、外部講師を招いての相撲学習や校内相撲大会など、たくさんの特徴ある教育活動を行っています。

美九里東小学校の子どもたちは、樹齢100年を超えるクスノキとロケットのように天高くそびえるメタセコイアの2本の大きな木に見守られながら、毎日元気に学校生活を送っています。



Name	小林 結月さん	金田 颯太くん	田中 あきだくん	鎌野 たくやくん
こばやし	ゆづき	かねた	そうた	たなか
あきやま	あきり	こじま	じゅん	れんや
秋山 咲里さん	小島 純菜さん	浅田 拓哉くん		

本との出会い

図書館司書がセレクトした新刊情報

開館時間 午前9時～午後8時(土・日曜日、祝日は午後5時まで)
休館日 月曜日
問い合わせ 図書館☎21669

夜が暗いとはかぎらない



著者▷寺地 はるな
さまざまな葛藤を抱える暁町の人々。閉店する「あかつきマーケット」のマスコット・あかつきが人助けをしながら町の人たちを変えていく。心に優しい明かりをとす13の物語。

「感情の老化」を防ぐ本



著者▷和田 秀樹
何をしても面倒くさいなど、感情の老化は前頭葉の委縮と性ホルモンの減少が原因。老化を防ぐエクササイズや前頭葉の活性化など、感情年齢の若返りを図る生活習慣を紹介する。

忘れない味「食べる」をめぐる27篇



編著者▷平松 洋子
食べることは生きること。林芙美子「風琴と魚の町」、南伸坊「うな重はコマル」など、食べ物・飲み物をテーマとした小説・エッセイ・詩歌・マンガなど、全27篇を収録。

人権を考える

問い合わせ 生涯学習課(☎26888)



～病気と人権～

私たちは誰でも病気になる可能性があります。そしてその病気によって人権が侵害されてしまうことがあります。

ハンセン病について

ハンセン病は「らい菌」に感染することで起こる感染症です。これまで感染への恐れや、顔や手足の変形といった後遺症のために、患者や家族が長く差別されてきました。昭和6年「らい予防法」の成立により、療養所への強制入所や「無らい県運動」などの政策により、恐ろしい病気という意識が国民全体に広がりました。治療薬ができてからも、平成8年の「らい予防法」廃止まで隔離政策が続いたために、差別と偏見が根強く残ってしまいました。この病気は感染力が弱く、現在では治療薬ができ早期発見により完治する病気になりました。しかし世間の偏見と長期間の隔離政策のため、回復した人でもいまだに療養所で生活している人が多く、社会と隔離し孤立してしまっています。

HIV感染とエイズについて

1980年代に初めてエイズが発生し、その原因であるHIVウイルスも発見されました。その後、エイズは短期間で全世界に流行してしまいました。このときは、治療薬もなく、不治の病として大変恐れられ、いろいろな偏見を生みました。

HIVウイルスは感染力が弱く、感染経路は性行為・血液・母子感染に限られます。日常生活では感染することはありません。また、現在では治療薬の開発が進み、万一、HIVウイルスに感染しても早期に治療することにより、エイズの発症を抑えることができるようになってきています。正しい知識や理解に基づいて行動すれば、HIV感染者とも安心して一緒に活動することが可能です。

偏見を生まないために

この2つの例からも、病気について関心を持ち、正しく理解することが必要です。

分かりません。無理解は偏見を生み、差別につながっていきます。正しい理解により、病気の人の苦しみを感じ、支えることができるような、思いやりのある行動が取れるようにしていきたいものです。

ヘアドネーション

正しい知識と理解に基づいた思いやりのある行動の一例として、「ヘアドネーション」があります。病気などにより髪を失った人に医療用のかつらを贈るために自分の髪の毛を寄付する活動です。先日、県内の女子高校生が参加しているという新聞記事がありました。

病気と闘う人のために自分のできることで支えていく素晴らしい取り組みです。毎日の生活の中で、何カ月も何年も病気の人を思い、支えていくこととする気持ちが何よりも大事なことです。今後もこうした姿勢や行動を実践していくことが大切です。